

## 留学を終えて

塩満ふみか

### ○大学生活

私が通ったサザンクロス大学では、8:30 から 10:00 までが 1 時間目、15 分休憩をはさんで、10:15 から 11:45 までが 2 時間目、30 分の昼休みをはさみ、12:15 から 13:15 までが 3 時間目というスケジュールでした。すべて英語の授業です。授業内容はほとんどがグループディスカッションの形式でした。未来の世界はどうなっているか予測し合ったり、それぞれの出身国のスポーツや映画を紹介しあったりしました。また、自分たちが株式を買い占めるとして、どの会社の株を買うかグループで決め、変動の様子を調べる授業もありました。私のクラスは、日本人、インド人、ネパール人、中国人で構成されたクラスでした。そのほとんどが、年上で、大学院でサザンクロス大学に来ている人ばかりだったので、レベルが高かったです。特に、株の授業に関しては、私は全く理解することができなかったのですが、院生の方はスラスラと自分の考えを述べていて、自分の知識の無さを痛感しました。英語のレベルも低かったので、最初はなかなか意思疎通できず、悔しく思うことも多かったです。

しかし、クラスメイトはとても親切で、休み時間に話しかけてくれたり、私が英語で困っていると訳してくれました。登下校も同じだったので、毎日お互いの国の事やオーストラリアでの生活について話しました。最初は授業でしか話さなかったのが、いつの間にか休み時間も一緒にいるようになり、帰ってきた今でも、連絡を取れる関係になりました。また、最終日には、授業後もクラスメイトや先生が残ってくれて、拍手をして送り出してくれました。私が日本に戻ることを「寂しい」と言ってくれることが、こんなに嬉しいことだとは思いませんでした。

正直、行くまでは、「たった1か月間学校に行っただけで、何も変わらないのではなかいか。」と思っていました。しかし、年齢も、国籍も違う人々と友達になれたことは、自分の中で大きな自信となっています。また、温かくて優しい、かけがえのない人たちと出会うことができました。

### ○小学校での体験

ホストマザーが小学校の先生ということで、地元の小学校に1日ボランティアに行きました。そこでは、日本の小学校と 180 度違う教育に、ただただ驚かされました。

まず、オーストラリアの小学校には、教科書がありません。私は小学校1年生の授業を見たのですが、どの授業でも使用するのはノートのみ。例えば、算数の授業では、大小様々な魚が描かれたプリントを切り、大きい順に並べ、色を塗りました。文法の授業では、絵本の文章を書き、その文章に合ったイラストをそれぞれが想像し

て描いていました。

そして、より驚いたのは、作業中、児童たちが床で書いたり、壁で書いたりしていたことです。日本では、小学校1年生でも、横2列ずつ座り、行儀よく授業を受けます。それに対しオーストラリアの小学校では、児童たちは授業中もひたすら動いていました。ホストマザーに理由を聞くと、「子供はそもそも動きたいものだから、座らせていたらかわいそうじゃない」と笑っていました。当たり前のことですが、自分が今まで受けてきた環境との違いを目の当たりにし、カルチャーショックを受けました。

授業には、youtube を見ながら皆でダンスをする時間もありました。クラスに1人騒がしいのが苦手な子がいたのですが、その子はダンスの時間になると、ダンスには参加せず、1人でほかの授業の内容を進めていました。しかし、皆それを理解しているのか、誰もそれを気に留めるでもない様子でした。「一人だけ違う」ということを受け入れるのは、7歳には難しいことではないでしょうか。オーストラリアでは、他の人のことよりも、自分自身を大事にしているように感じました。

3時前に授業が終わり、帰宅。皆元気いっぱい、可愛いです。私は英語がそこまで話せないのに、コミュニケーションをとるのは非常に難しかったですが、それでも沢山話しかけてくれて、一緒に遊ぶことができました。

そして、私自身教育学部に所属していることもあり、小学校の教育について考えるきっかけにもなりました。教科書がない、きまりもない、動き回っても良い、オーストラリアの自由な校風は「子供」であることが尊重されていると感じました。「小さな子は小さな子らしく」育つという、当たり前のように、今まで気が付かなかった新しい視点を持つことができました。

働き方の面でも違いがあります。私の行った小学校では1年生から6年生まで、全クラスで3時には授業が終わります。従って、教職員は帰る時間が早く、4時前にはほとんどいませんでした。また、教師だけでなく、ゴールドコーストでは店が閉まる時間も早かったです。ワークライフバランスが取れていると感じました。労働問題の多い日本にも、学ぶべき所があると感ずます。

海外の学校に行くというのは、なかなか得られる経験ではありません。自分の環境を見つめ直す貴重な機会を頂きました。



## オーストラリアでのクラス

### ○アピールしたこと

サザンクロス大学での授業で、自分の国で人気があるスポーツを紹介する時間がありました。グループワークで、私のグループにはインドとネパールの方がいたのですが、どちらの国でもラグビーが人気だそうです。また、オーストラリアはラグビー強豪国です。そこで、2019年に埼玉でラグビーのワールドカップが行われることを伝えました。皆非常に羨ましがっていました。しかし、私自身、ラグビーの詳しいルールなど知識不足だったので、もっとラグビーについて知りたいと思いました。

また、オーストラリアに行ったら祭りについて紹介しようと思っていたので、ホストファミリーに埼玉県各所の桜まつりの写真を見せ、説明しました。私が行ったゴールドコーストは一年中温かいので、花の種類も限られており、日本の桜のような花はありませんでした。ホストファミリーは花が好きなのもあり、興味を持ち、その美しさに驚いていました。

また、ホストファミリーの8歳の子供は、生まれてから一度も雪を見たことがないそうです。改めて、四季のある日本の良さに気が付きました。

また、オーストラリアでは寿司が大人気でした。町やショッピングセンターでもお寿司屋さんを頻繁に見かけました。しかし、日本の寿司とは異なり、手巻きずしが一般的です。実際に夜ご飯でホストマザーが作ってくれました。ごちそうだったようで、ホームステイ先の子供たちも大喜びでした。チキン、エビ、アボガド、キュウリ、ツナをのりにご飯で巻き、食べました。日本の寿司とはまた違う味がしました。さっぱりしていて美味しかったです。今回お茶を持っていくことができなかったのを残念に思います。また機会があれば是非狭山茶を持って行って寿司と一緒に飲んでもらいたいです。

最後に、オーストラリアの車は日本車がほとんどでした。ホストマザーも、日本と言えば車と言っていました。また、学校の方は、日本と言えば技術力が高いというイメージを持っていました。確かに、家具、車、トイレなど、日本の技術は繊細で、レベルが高いように感じます。実際に埼玉にも高い技術を扱う会社が多くあります。自分の身近な技術が、遠く離れた国で使われていることは、素晴らしいことだと感じました。



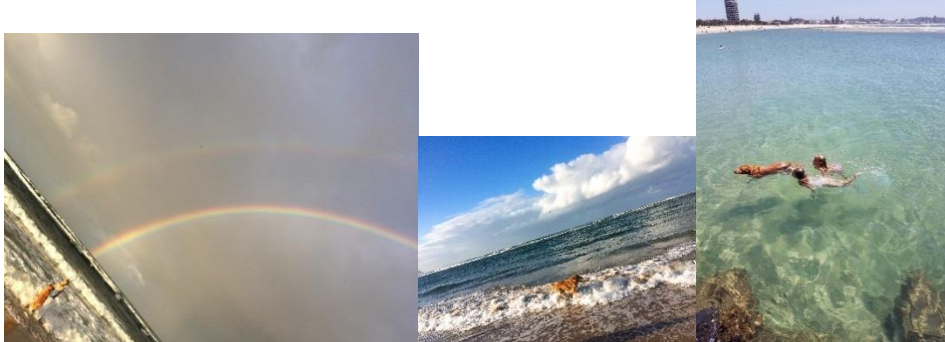
夕飯のお寿司

## ○オーストラリアでの生活

私がホームステイをした先は、徒歩 10 分で海にたどり着く場所にありました。海はどこまでも透き通り、下を見れば魚が泳いでいるのがはっきりと見えました。初めて海を見たときはそのあまりの綺麗さに驚いて、フライト後でくたくたなのも忘れて、ひたすら泳いでしまいました。

オーストラリアでの生活は、とにかく海尽くし。朝 5 時半に起き、海で泳ぎ、7 時に学校に向かう。そして 14 時に帰ってきてすぐにまた海で泳いでいました。そして、17 時には夜ご飯。21 時には寝ていました。健康的な生活を送ることができました。私は泳ぐのが苦手で、海は好きではなかったのですが、毎日 2 回泳ぎに行くうちに、海が大好きになっていました。現地の犬も海が大好きで、どの犬も幸せそうに泳いでいました。私の家族にも犬がいたので、一緒に泳ぎました。

同じ海でも、朝、夕方、曇り、晴れで表情が全く違います。毎日行くたびに変わるその表情の虜になりました。そして向こうは、ちょうどこの時期は夏で天気が変わりやすく、晴れと雨を繰り返し、何度も虹を見ました。初めて二重の虹、そして虹の終わりと始まりを見ることができました。



ゴールドコーストの海

また、ホストファミリーは、お母さんと三人の子供(25 歳 16 歳 8 歳)と、5 歳の犬がいました。家のプールで急に始まる兄弟の飛び込み対決に参加したり、家族で映画を見たりと、にぎやかで楽しい毎日でした。

ご飯は、基本的に肉や野菜をグリルしたものに、サラダ。ご飯やパンはつかないことが多かったです。フルーツも豊富にありました。食べ物は不安要素の一つでしたが、毎日美味しく食べられました。

また、時間があるとホストマザーが、彼女の友人など、多くの現地の方に会わせてくれました。話の内容が理解できず、言いたいことも伝わらないことばかりでした。しかし、ボディランゲージを使ったり、笑ったりして、何とかコミュニケーションをとりました。そのおかげか「会えてよかった」と言ってもらえることがあり、言葉がしっかり話せなかったとしても、伝わるものはあるのだと感じました。

お金ではかえられない、美しい海、自然、人と本当に贅沢な暮らしをさせて頂きました。



現地でのご飯

最後に、一か月現地でやり遂げられた自分を誇りに思います。その経験ができたのもクラスメイトや、ホストファミリー、私の中で一生忘れられない人達と出会えたのも、この留学があったからです。私にとって一番充実して、一番大きな一か月でした。ありがとうございました。

